

市場動向報告

May. 2018
Rev. 1.4

中国のシェアバイク解説レポート

写真で見る中国のシェアバイク

本資料の目的

中国のシェアバイク環境は2016年夏ごろからの展開後、目まぐるしく変化しています。代表的な2社であるmobike、ofoだけでも様々な車種の自転車が投入されているほか、サービスが利用されることで発見されたであろう改善ポイントを踏まえ、自転車自体の工夫が随所に見られます。

本資料では、日本の皆様に中国のシェアバイク環境をより詳しく知っていただくためのガイドとしてご活用いただきたいほか、見過ごしてしまいやすいポイントをご案内することを目的に整理しています。

ご質問等は当シェアバイクラボ(info@sharebike-labo.com)までご連絡ください。

※本資料は2018年4月時点までの現地調査活動をもとにしております。

ofoの車両の読み取り方



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所: ofoの展開地域(中国全土)

ofoの車両は当ラボが確認しているだけで13のメーカーで製造されています。

製造メーカーの情報は、2016年製造の一部の車両を除き「合格证」の下に記載されています。

中には「韓国線」と表示されている自転車も投入されており、韓国展開用に製造した車両であった様子が伺えます。

mobikeは委託先製造工場名は表示していません。

修理待ちのofoに出会う



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：of0の展開地域(中国全土)

of0は、再配置を行うスタッフなどが故障を発見すると修理待ちのシールを貼りユーザーに利用ができないことを知らせています。

この車両を予約しようとするとき、「故障中で利用できない」として、他の車両を利用するように促されます。



レアなofo自転車その1

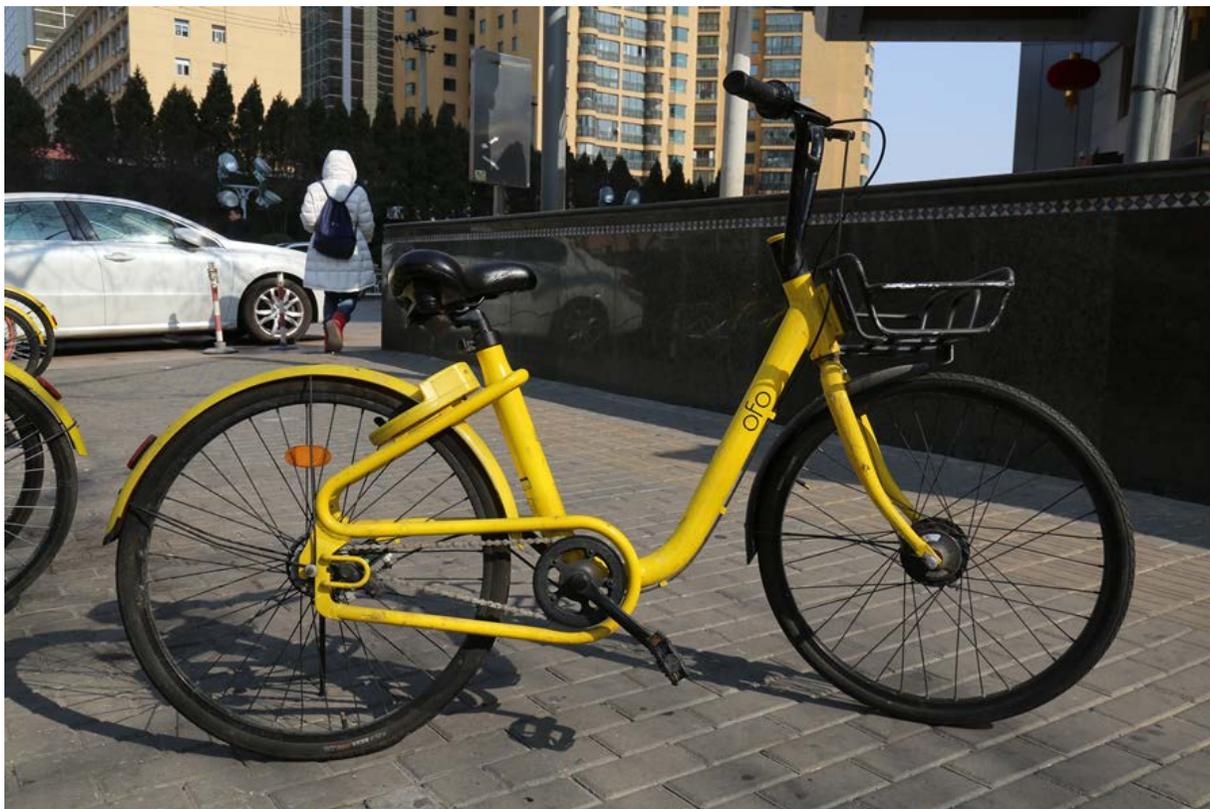


Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：北京

ofoの自転車の中でも投入量の少ない自転車のひとつです。

ofo Curveと呼ばれるデザインで、700bikeとのコラボによるデザインです。

工場は愛地雅で、2017年初頭にごくわずかに投入されました。

レアなofo自転車その2



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：北京

前頁のofoの自転車よりさらにレアな車両です。パイプ式バスケットが使われていない唯一の自転車です。

一部の自転車ではバスケットの破損が目立ち、この車種以外では同様のバスケットの採用はされていません。

製造は上海鳳凰です。

レアなofo自転車その3



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：北京

北京大学構内にのみ配置されているofo車両です。

自転車自体は他で展開されている自転車と同様ですが、北京大学の教員または学生のみが利用できません（利用しようとする時、あらかじめ学生証等の登録がないと乗れない。）

レアなofo自転車その4



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：北京・上海など全国

ofoの自転車のスマートロックはほぼ全てがバッテリータイプですが、ごく僅かな台数でソーラーパネルでの充電式の自転車が投入されています。

スマートロックのデザインの違いで判別可能です。



レアなofo自転車その5



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：深セン

ofoの自転車の最新式です。ベルトドライブであることが特徴的です。2017年12月から投下されており、深センの台峰だけが生産しています。

バスケットありとなしの両方が生産されており、バスケットなしモデルは前面にリフレクターが装着されています。



ofo自転車(標準型)



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所: 全国

ofoの標準型の自転車です。複数のメーカーが製造しており、細かいフレームの構造は異なるものの、初期の20インチ型から発展し最も投入されている自転車です。

スマートロックが黄色カバーであるものは、ofoのスマートロックとしては初期型です。

ofoのダイヤル式ロックの形状

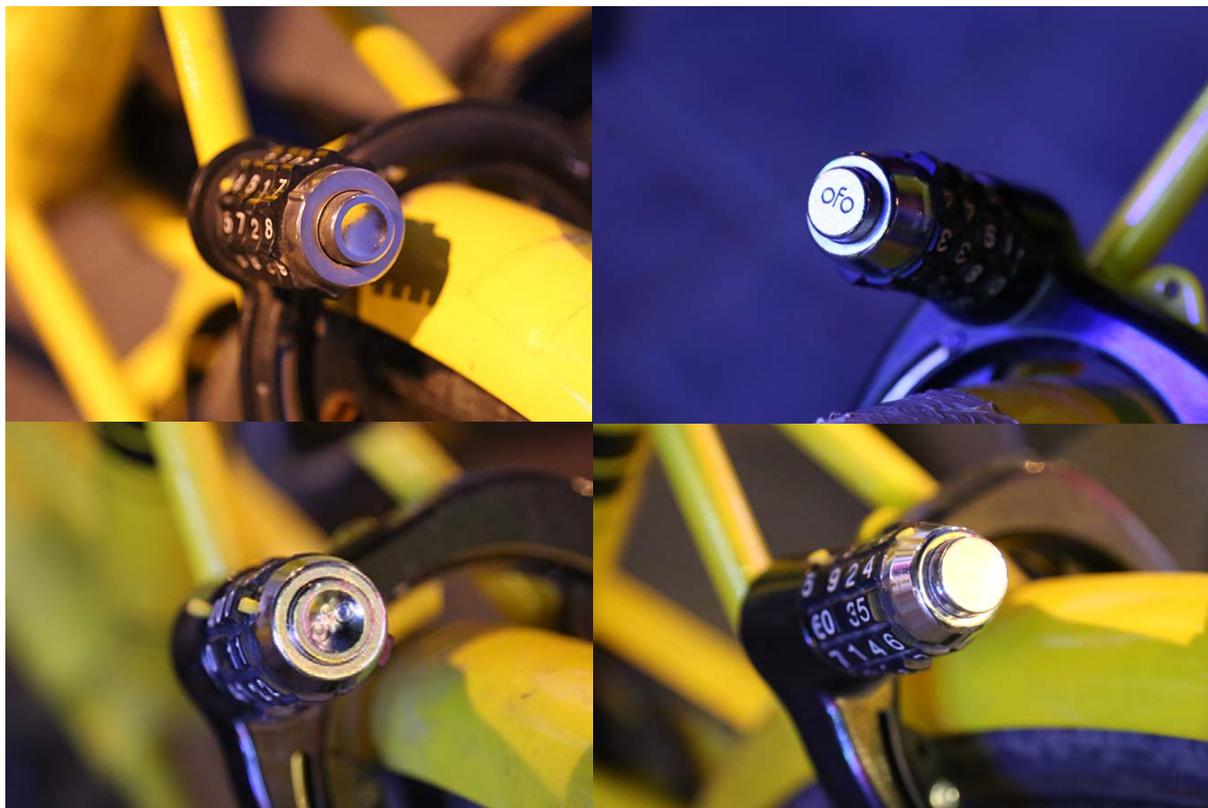


Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：全国

ofoは、初期はスマートロックではなく4桁ダイヤル式ロックでサービスを開始しました。(アプリで利用開始すると、自転車の鍵番号が表示される)

このダイヤル式ロックにも様々な形状があり、ofoのロゴが刻印されているもの、刻印部分が凹んでいるもの、刻印のないものなどがあります。

投入時期はほぼ重なるため、製造メーカーにより異なる鍵が供給されていたことがわかります。

mobikeの自転車



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：全国

mobikeの中でもっとも台数が多い自転車の一つです。

この車種は「mobike」と書かれており、類似のフレームとしてmobike liteと書かれたものもありますが、投入時期が異なります(mobike liteの方が先)

穴あきタイプのチューブレスをはいており、やや硬めの走行感です。mobike liteからはシートの形状が変わっています。

チェーンタイプです。

mobike lite



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：全国

mobikeが2016年11月に展開を始めた”mobike lite”車両です。”lite”と丸印で小さく書かれていることでわかります。

シャフトを用いた車両の半分の料金設定(30分0.5元)として展開されましたが、mobike liteはこの車両だけで終了し、フレームのデザインがやや変更され、前頁の普及型mobikeに移行されています。



mobikeの自転車(シャフト第1世代)



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所: 全国

mobikeのシャフト型車両のうち、
量産型車両の第1世代です。

バスケットなし、シャフトカバー
がシルバーであることが特徴です。

mobikeの自転車(シャフト第2世代)



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所: 全国

第1世代がバスケットなしでしばらく展開された後に投入された第2世代のmobikeです。mobikeが海外向けに展開を始めた際のベース車両となったデザインで、シャフト車両の中ではもっともおおく見られます。

mobikeの自転車(シャフト第3世代)



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所: 全国

mobikeのシャフト型車両のうちもっとも新しい自転車（第3世代）です。

見分け方はバスケットとシャフトカバーのいずれもが「オレンジ」である点です。

mobikeの自転車



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：北京、上海、深セン

mobikeの新デザイン車両で、2017年12月から投入が開始されています。(チェーン式)

重量は15.5キロでmobikeの車両では最も軽量であるほか、ギア比の違いにより乗り出しも軽くなっています。シートのレバーは持ちやすい形状に変わりました。



mobikeの自転車(特別デザイン1)



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所: 全国

2017年9月17日の「World Cycling Day」にあわせて投入した自転車です。標準的なmobikeのチェーン型車両にパネルをあわせています。

なお、その後も引き続きこの車両は投入されつづけており現在でも確認することができます。

mobikeの自転車(特別デザイン2)



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所: 全国

2017年10月の国慶節にあわせて展開された「厉害了我们的国」(Amazing China, 日本語では「すごいよ私たちの国」)キャンペーンのデザインです。同様の特別デザインはofoでも展開されました。

mobikeの自転車(特別デザイン3)



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所: 北京

「厉害了 我的国」のキャンペーン車のうち、シャフト車に展開されたものです。デザインは2017年に展開されたものから変更されています。

五角ナット



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：全国

mobikeやofoの自転車を注目すると、ほぼ全ての自転車は五角ナットが採用されています。

いたずら防止の観点が理由であると考えられます。



スマートロックのバッテリーパック



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：全国

スマートロックの内部にはバッテリーが搭載されています。

スマートロックの型式は複数存在しており形状の違いがあるものの、バッテリーパックの位置は右側に集中しています。（左側には鍵部分が存在）



唐沢のバンドブレーキ



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：全国

唐沢のバンドブレーキはmobike、
ofoのいずれでも採用されており、
当ラボの調査ではおおむね7割程
度で採用されています。

唐沢以外にはShuangZheng、紅
日、KBVのバンドブレーキが見ら
れます。

なお唐沢はサーボブレーキが特徴
的なメーカーですが、サーボブ
レーキが採用されている自転車は
見当たりません。

唐沢製はシールに「唐沢」の文字
がみられます。

唐沢のドラムブレーキ



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：全国

mobikeとofoのいずれの自転車でもドラムブレーキが見られます。

型式は同一とみられ、ofo用には黒色、mobike用にはオレンジ色で塗装されています。



便利蜂



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：北京

便利蜂は買い物ECサービスを提供する企業が展開するシェアバイクです。北京市内だけで2017年秋に実験的に数百台が投入され、その後二次車が投入されています。

20インチで、大きめのバスケットが特徴的です（買い物袋が入る大きさとして設計）。

天津跑狼(WOLF)が製造を一括して受託しています。

7号電單車



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：北京、天津

7号電單車は電動車を用いたシェアバイクサービスを展開しており、天津、北京などで確認ができます。

写真の車両は二次車で、一次車は上海の「享騎電單車」と同一の車両を採用しています。

また現在は三次車による電動アシストタイプが出現しています。

永久智能車



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：上海

中国の主要自転車メーカーである上海永久が展開する「永久智能車」の二次車です。黄色をベースとしていることで見分けられます。車両は電動アシストです。

走行可能距離の液晶表示が組み込まれています。



永久智能車



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所: 上海

「永久智能車」の一次車です。バッテリー容量が小さく、2017年夏前に投入が開始されたものの、2017年10月以降すぐに二次車に投入が切り替えられました。赤色は全て一次車です。

一次車、二次車ともにベルトドライブです。ロック機構はなく、Bluetoothでの通信後に電力が供給されます。

享騎電單車



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：上海

享騎電單車は上海で展開されている電動車です。写真は二次車で、バスケットしたにライトが設置されています。

享騎電單車と書かれていれば二次車以降、享騎出行と書かれていれば一次車であると見分けられます。



享騎電單車



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所: 上海

享騎電單車の一次車です。二次車の投入により比率は下がっていますが、現在も確認ができます。

バッテリー残量メーターのデザインでも一次車であることが見分けられます。(メーター下にライトあり)



享騎電單車



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所: 上海

上海は電動車へのナンバープレートが義務化されており、二次車からは投入時点で全てバスケット部分に貼り付けられています（一次車もほぼ追加されています）

電動車のため、自転車と異なり16歳未満は利用禁止です。



mango



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所: 北京、武漢

mangoは電動車のシェアリングで初期に出現しはじめた企業の一つです。

シート部分とステップ部分にバッテリーが格納されており、バッテリー交換だけでなく外部電源からの給電を行うことができます。

mebikeも同一の電動車（新日製。ブランドはSUNRA）を用いたサービスを展開しており、カラーも似ていますが、泥除け部分が緑で塗装されていることで区別できます。

mebike



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：北京、重慶、南京、合肥

mebikeは2017年9月ごろにサービスを開始し複数の都市でサービスを開始している電動車・電動アシスト車でのサービスです。

左の写真は一次車でponygoと同一車種、下の写真は二次車でmangoと同一車種です。



ponygo



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：北京

ponygo は2018年の年始から北京市内に投入が開始された電動車のシェアリングです。

2018年3月時点では北京市内の東側で100台程度の投入が確認されています。

bluegogo pro



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：北京、上海等

bluegogo全盛期の2017年春に投入されたbluegogo proです。

bluegogoのフレームをベースに、シマノのInter3(内装三段)が搭載されている中国の中でも当時珍しかった変速付のシェアバイクでした。

bluegogoの倒産により車両はdidiがその資産を譲受け、一部の車両は整備されて再度投入されています。

bluegogo



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：北京、上海等

在来型のbluegogoです。mobike、ofoに続いて3位の位置を占めていましたが、前述のとおり経営破たんし、現在はdidiが自転車を譲受けてサービスを提供しています。

経営破たん後、一時期自転車は全て回収されていましたが、2018年1月ごろから整備済みの車両が一部再投入されはじめています。

bluegogoベースのdidi



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所: 北京、上海等

2018年3月になって確認されるようになった「bluegogoベース」のdidi車両です。

bluegogoの車両をクリーニングして投入されている車両もありますが、新たに製造されている車両も確認されています。(クランク、シートなどの仕様は全て同じですが、フロントのブレーキがグレーのカバーのバンドブレーキである点で新車であることが判別できます)

青桔單車



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：成都、深セン

2018年に入ってdidiがサービスを開始した青桔單車です。自転車自体に大きな特徴はなく、一般的なシェアバイク用のフレームや仕様です。

深センでの投入直後に、投入が認められていないにも関わらずサービスを開始したことで当局により「鎖につながられる」事件が発生しました。



Hellobike



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：中国全土

Hellobikeは2017年末から急速に投入台数を増加させています。ただし、投入制限が設けられている地域では都市中心部には配置できないケースもみられています。

自転車車両自体の特徴は特にありませんが、Alipayとの決済連携を前面に打ち出しています。

99bicycle(赳赳單車)



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：北京、上海等

99bicycleは上海を起点に、保証金を支払えば30分以内のライドは無料として全国展開を図ったサービスです。

2018年3月現在でもサービスは提供されていますが、一部の地域を除いてメンテナンスはほぼされておらず、自転車の故障率が高くみられます。

酷騎單車



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：北京等

酷騎單車は2017年9月に運営企業が経営破たんし、突如サービス提供を中止しました。

0.3元/30分と安い価格設定と、当初10回の無料をうたってサービスを開始したものの、経営破たんにより既にユーザーが支払っていた保証金(298元)は返却されませんでした。

自転車は未だに路上に僅かに残っており見かけることができます。

U-bicycle(优拜单车)



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所: 北京・上海等

2016年冬から本格的にサービスを開始したU-bicycleは、左の写真の車種を中心に複数の地域でサービスを展開しました。ただし、自転車の整備に課題があり、高い比率でトラブルが見られます。(チェーン、シート)

ステップを設けたフレームデザインが特徴的です。



智享單車(LIVELO)



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：北京・広東

智享單車のLIVELOです。

キャリア部分のスマートロックとソーラーパネルが一体化している独特のデザインで、2017年4月ごろから市場に投入され、その後2017年秋までの間は多く見られました。



智享出行(北京海淀区での放置車両転用サービス)



Photo: ShareBike Labo

確認できる場所：北京市海淀区内

北京の西側に位置する海淀区でサービスが展開されていたサービスです。2016年秋に、いわゆる放置車両にスマートロックを取り付けるかたちで500台で開始されましたが、2万台まで増加させる計画があったものの頓挫した模様です。

